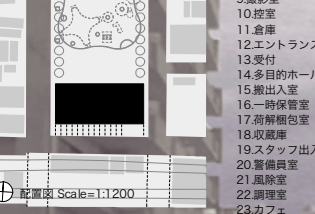


北斎館 | Katsushika Hokusai Museum

葛飾北斎の展示を中心とした墨田区を象徴する新たな地域文化観光施設の提案

この建物は「ABSTRUCTION」、「HOKUSAI WALL」、「ADJUSTABLE PANEL」、「1800x3600 MODULE」という4つのコンセプトをもとに計画されています。
 この建築は緑町公園側の低層部、JR線高架側の高層部、そしてそれをつなぐスロープによって全体が構成されます。低層部にはエントランスホール、多目的ホールといった区民の文化活動を支える空間を配置し、緑町公園との一体的な利用を可能にします。高層部には常設展示室・企画展示室といった展示機能(5F/4F)、図書室・書庫といった図書機能(3F)、カフェ・ミュージアムショップといったサービス機能(2F)、そして搬出入・事務機能(1F/B1F)が配されます。4つのコンセプトが複合的に機能することで、世代を超えて共有される北斎画の持つ繊細なイメージを、北斎の歴史と共に街の記憶を共有・交換する文化活動の拠点として建築化する提案です。



北斎館面積表

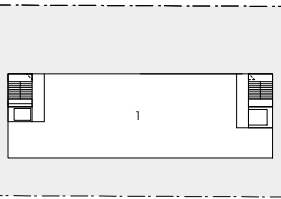
■地下2階床面積	: 481.14m ² (145.54坪)
■地下1階床面積	: 481.14m ² (145.54坪)
■1階床面積	: 690.66m ² (208.92坪)
■2階床面積	: 481.14m ² (145.54坪)
■3階床面積	: 481.14m ² (145.54坪)
■4階床面積	: 481.14m ² (145.54坪)
■5階床面積	: 413.10m ² (124.96坪)
■延床面積	: 3509.46m ² (1061.61坪)
■建築面積	: 712.80m ² (215.62坪) < 733m ²

01. ABSTRUCTION

北斎画を抽象化したガラスのファサード



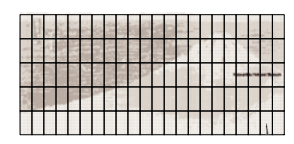
透き通るガラスのファサードで出来たこの建築は、装飾的で色彩的なデザインではなく、限りなくシンプルで抑制的な外形となります。外観は抽象化された北斎画の陰影だけが浮かび上がる仕掛けとすることで、近景では内外の風景が透き通り、遠景では北斎画が一面に浮かび上がるような仕掛けと、周囲に開かれた公共空間を実現します。



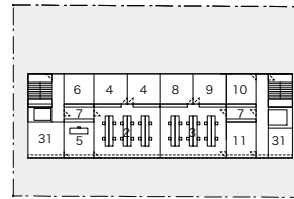
地下2階平面図 GL-7,200

02. HOKUSAI WALL

新たな観光資源としてのランドマーク



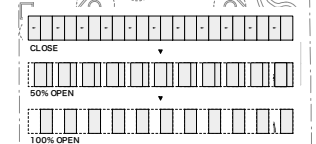
縦5枚×横22枚=計110枚のスクリーンパネルによって構成された、北斎絵画を抽象化して組み合せた一面のファサード(メディアウォール)は、幅広い北斎の画業を展示するにふさわしい文化観光施設としての強い誘引性を創り出すと共に、世界に発信する墨田区の新しいコンテンツとなります。



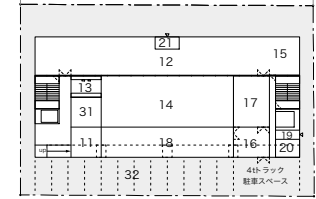
地下1階平面図 GL-3,600

03. AJUSTABLE PANEL

自然調光可能な可動式スクリーンパネル



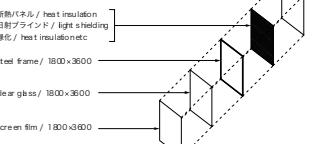
可動式パネルが自然調光を可能にすることで可能な限り自然光を取り込み、人工照明に頼らないサステナブルな展示空間を実現を目指すと共に、ランニングコストの削減を図ります。また多目的ホールなどでは、様々なイベントに合わせて開閉されフレキシブルな空間利用が可能となり、多様な機能に対応が可能となります。



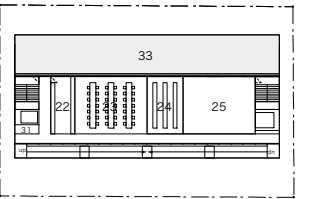
1階平面図 GL=0

04. 1800x3600 MODULE

多様な機能に割り当てられる1800x3600 モジュール



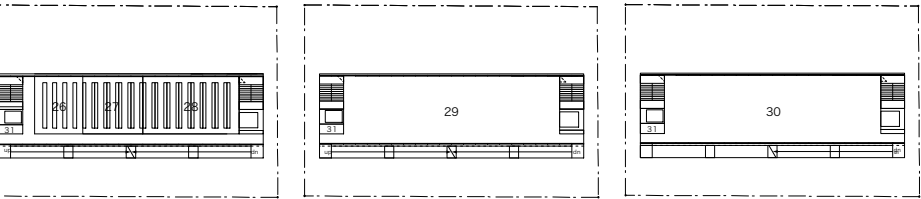
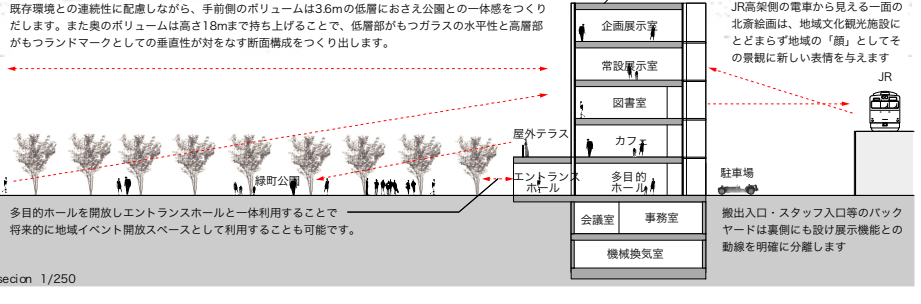
1800x3600パネルを多様な機能に割り当ててことで、経済性・機能性・合理性の獲得を目指します。パネルの枚数、構成を変えるだけで、様々な利用者・市民の要望にも迅速かつ柔軟に対応可能にし、同時に設計・施工の工期短縮にも寄与します。多様性を内包するミニマルでフレキシブルな建築システムの提案です。



2階平面図 GL+3,600

SECTION PLANNING

周辺環境との関係を配慮した断面計画



Scale=1/400



entrance hall | 公園と連続するエントランスホール

slope | 電車から北斎館を見る

cafe | 屋外テラスと連続するカフェテリア

exhibition space | 展示室内観

panoramic view | 全景

panoramic view | 全景